

日本列島に現れた最初の現代人：年代と文化的特徴

配布資料

首都大学東京大学院人文科学研究科 出穂 雅実

1. 上部（後期）旧石器時代とは

およそ1万年前よりも古い時代で、打製石器の時代（土器に先行する時代）。組織的な狩猟を行うなど高度に発達した狩猟採集社会。J.ラボックによって1865年に提唱された。日本、韓国、中国では後期旧石器時代、シベリアやヨーロッパでは上部旧石器時代ということが一般的。

2. 上部旧石器時代研究の方法

人類化石証拠：古人類学。

文化証拠：考古学。

環境証拠：地質学，古脊椎動物学，古植物学，古気候環境学。

遺伝証拠：遺伝学，DNA分析。

言語証拠：系統言語学。

→各分野が独自の手法と証拠に基づき仮説を提示し、それらを多様な観点から評価し、仮説をたたき上げながら進展している。

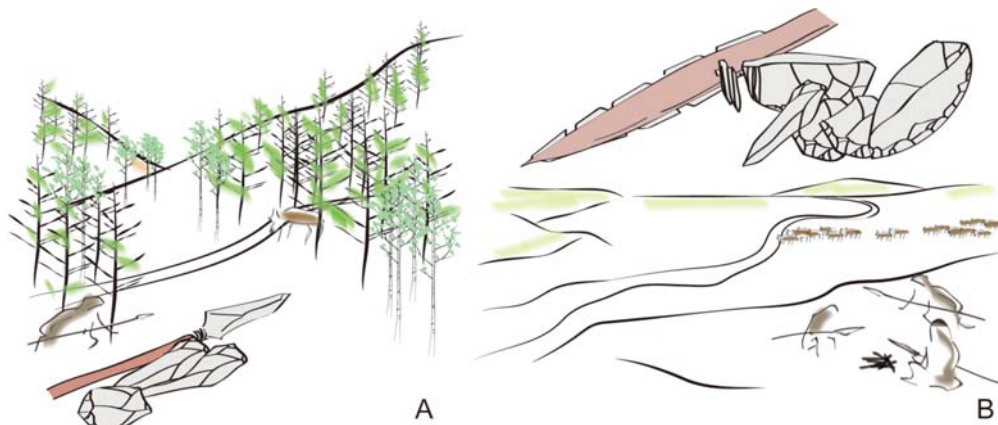
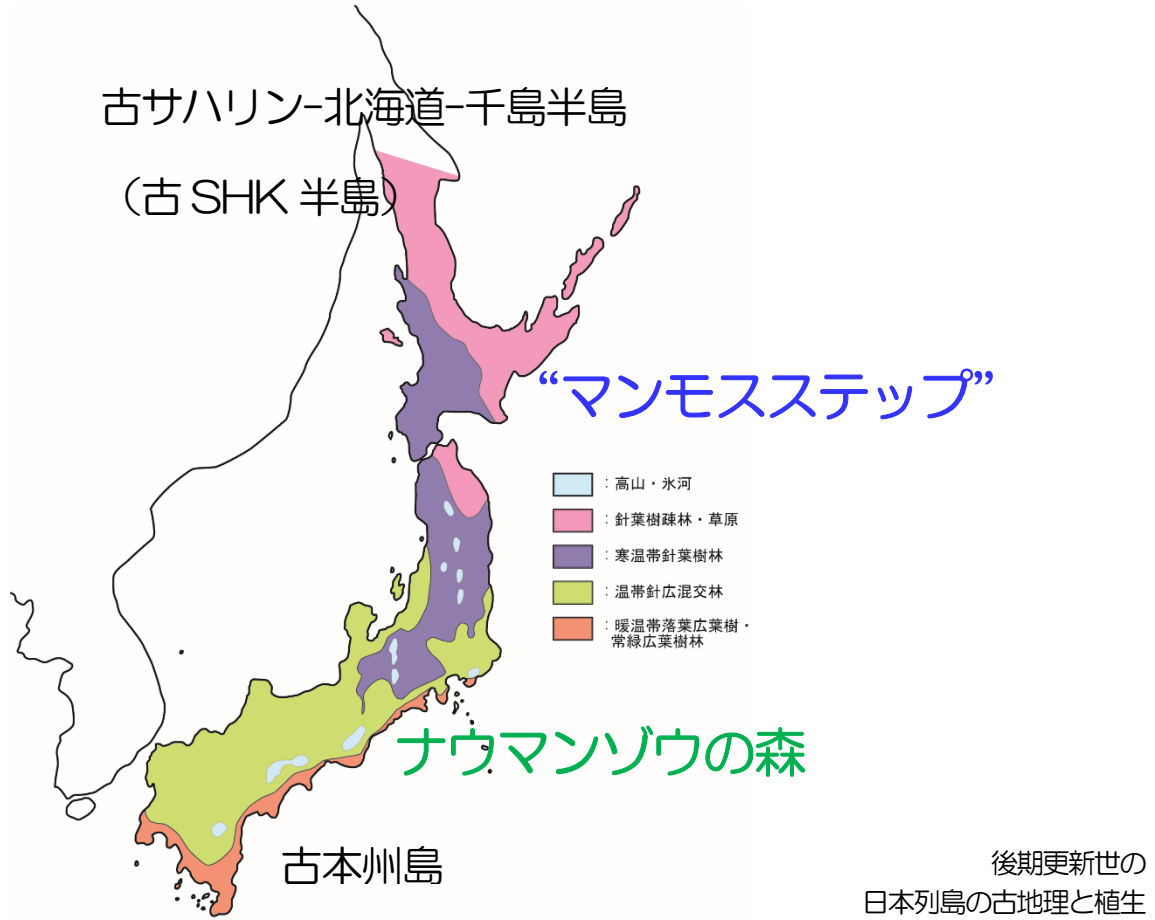
3. これまでの上部旧石器時代研究からわかってきたこと

ヨーロッパでの研究が開始された後、シベリア、日本をふくむアジア、オーストラリアなど、ヨーロッパ以外の地域で後期旧石器時代遺跡が多数発見され、研究が進められる。今日の研究成果によれば、ユーラシア大陸の後期旧石器時代はおよそ5~1万年前。現生人類（ホモ・サピエンス）の分布域が大きく拡大した時期で、農耕開始期以前を指す。地域によって生活様式や文化内容が大きく異なり、高い多様性を示すことがわかってきた。

→これまでは文化・民族の単位の同定やその編年が目的とされたが、現在は、人間行動、社会、文化が地域の自然環境とどのように対応しているのか、人間による技術進歩や発明が社会の発達とどのような関係にあるのかなど、人類生態学的・人類進化的意義の追及が行われている。

4. 日本列島の後期旧石器時代

- 日本列島の後期旧石器時代の遺跡数は、10,000箇所以上確認されている。
- 年代は約38,000年前から12,000年前まで。
- 現生人類の遺跡。
- 日本列島の形は今日と大きく異なる。日本列島は、古サハリン-北海道-千島半島（古SHK半島）と古本州島と古琉球列島の3つの単位に大きく区分できる。
- 当時の生態系は、古SHK半島はマンモスステップ、古本州島はナウマンゾウの森林が主に広がっていた。古琉球列島の詳細は不明。
- 狩猟採集社会であったが、古SHK半島と古本州島では狩猟対象も方法も異なる。



模式図：古本州型の狩猟活動（A）と古SHK半島型の狩猟活動（B）。Morisaki et al. (2015) *Antiquity* 89, p.568 Figure 5 から引用。

5. 比較：シベリアの上部旧石器時代とその概要

- ・前期（初期を含む）：45,000～35,000 年前、中期：33,000～25,000 年前、後期：23,000～12,000 年前。
- ・現生人類の居住。
- ・寒帯のマンモスステップ（草原）や開けたタイガ（森林）での狩猟採集生活。
- ・マンモス住居とヤランガ（チューム）式住居



ロシア、ザバイカル州ストゥデヨノエ1 遺跡で検出された1万6千年前のチューム式住居址（写真はザバイカル国立大学 A. Konstantinov 教授提供）。

6. シベリア、古 SHK 半島、および古本州島の後期旧石器時代狩猟

採集民の関係：神奈川の旧石器時代を考える

- ・約2万年前に極寒環境のシベリアは無人居地になったのか？
- ・その時、古 SHK 半島はシベリア狩猟採集民の避難地になったのだろうか？
- ・古本州島の狩猟採集民とはどのような接触があったのだろうか？神奈川県内で発見された後期旧石器時代の遺跡と出土した石器からは、どのようなことが推測できるのだろうか？